

環境資源と情報システム

武内 和彦・恒川 篤史 編



A 5判・219ページ。
定価3502円(税込)。
平成6年6月1日初版発行。
同年5月30日受付。
〒101 東京都千代田区
神田駿河台2-10
古今書院発行。
TEL. 03-3291-2757

森林資源や水資源はもちろんのこと、大気や土地、海洋といった人間が生きていく上で欠くことのできない環境要素の総称を環境資源と呼び、これらの環境資源を枯渇させることなく持続的に利用できるよう環境を統合的に管理することを環境管理と定義している。賢明な環境資源の保全と活用を図るためには、適正な環境管理を実践する必要がある、そのためのツールとして環境情報システムが位置づけられる。

環境情報システムは、環境資源を地図情報や統計情報のかたちで整理し、これらをデータベース化して環境資源相互間の関係や人間にとっての重要度を分析・評価し、環境管理を実践する上での判断材料を提供するものである。本書は、環境情報システムに関する既往の研究がシステム構築に重点を置きすぎたばかりに、その有効活用が十分に図られていないことを反省し、筆者らが実際に行ってきた環境管理のための情報システムの整備と活用について、具体的な事例を数多く紹介しながら、環境管理に向けて情報システムをどう活用していくかを説いている。 【サ】

1. 新潟地震と防災技術

2. 未来への記憶

～新潟地震から30年

1. 学術技術誌編集委員会 編

新潟地震30年事業実行委員会
企画・監修

2. 新潟地震30年事業実行委員会

企画・監修



A 4判・1. 333ページ。
2. 97ページ。
価格1. 5000円(税込)。
2. 1000円(税込)。
平成6年6月7日初版発行。
同年7月6日受付。
〒951 新潟市学校町通
2番町5295
新潟地震30年事業実行委員会発行。
TEL. 025-223-0731

ここで紹介する2冊の書は新潟地震から30年を経た平成6年6月に実施された「新潟地震30周年事業」の一環としてとりまとめられたものである。『新潟地震と防災技術』は大きく分けて2編から構成されている。第I編は地震や津波に関する詳細な記述、地形地質、地震発生メカニズム、さらに地震被害、復旧作業について整理したもの、第II編はわが国の防災対策に関するその後30年間の研究成果と今後の課題について取りまとめたものである。一方『未来への記憶～新潟地震から30年』は地震の体験と教訓についてインタビューをもとに作成されたものである。内容は被害対象物ごとに取りまとめられ、さらに情報、火災、避難、救援活動といった分野も盛り込まれており、多くの職業に携わっている人たちの貴重な証言が集められている。また第一章の冒頭には当時の中学生が書いた詩が載せられており、違った立場から見た地震災害についても語られている。これら2冊の内容は広範囲なものであるにも係わらず良くまとめられており、地震や防災を手がけている人にとって、かなり重宝する内容となっている。 【K】